



T-time

帝塚山学園広報誌

Vol. **20**
2025/Mar.
令和7年3月5日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園



Contents

巻頭言 P 02
 これからも選ばれ続ける帝塚山学園であるために
 富岡 将人 理事長・学園長

大学 P 03
 第17回博物館実習生による企画展示
 「彩を纏うー着物文化を語る道具たちー」学生たちによる展示解説
 TOPICS
 ・経営課題に挑む経済経営学部田中ゼミ生の挑戦
 沖縄企業の課題解決に向けた学生のオンライン提案
 ・法学部・西岡柚葉さんが一日消防長に!ー火災予防を呼びかけー
 ・教育学部 スチューデント・コンサート
 居住空間デザイン学科 卒業研究展を実施

中学校・高等学校 P 05
 田んぼプロジェクト脱穀・実食
 ～自然の恵みに感謝し、学びを深めた実りの一日～
 TOPICS
 ・ロボット研究と進路選択についてのキャリア講演会を開催
 ・数学研究部が「近畿スマホサミット2025」に奈良県代表として参加!
 ・ハワイ・ミリラニ高校との国際交流を実施!

小学校 P 07
 ～響け、感動のハーモニー～
 コーラス部が「1万人の第九 EXPO2025」出演決定
 TOPICS
 ・2024 WINTER FESTIVAL 英語発表会を開催
 ・外部講師出張授業を実施
 ーロボット体験教室でプログラミングに挑戦ー
 ・Instagram公式アカウントを開設しました

幼稚園 P 09
 チャレンジプログラム最終日 ～挑戦の成果をここに～
 TOPICS
 ・皆で鬼退治! 元気いっぱい豆まき
 ・よいしょ!よいしょ! みんなで力を合わせてお餅つき
 ・園児たちの創造力が輝く「制作展」を開催!

活躍する帝塚山生 P 11

教育連携 P 13
 つながる ひろがる 教育連携

・同窓会だより P 15
 ・INFORMATION P 18

T-time

帝塚山学園広報誌

2025/Mar. Vol. 20

令和7年3月5日発行



〈表紙の写真〉

2月7日に開催された学習発表会で演じた役柄の衣装を着た小学校6年生組の児童たち。発表会では、各クラスの児童たちの発達や好み、クラスの雰囲気や踏まえたオリジナルの台本を担当が作成。児童たちは演技や衣装に工夫を凝らし、発表会を盛り上げました。

巻頭言

これからも選ばれ続ける 帝塚山学園であるために

このT-timeに所感を述べるのは昨年同時期以来となりますが、今回は「これからも選ばれ続ける帝塚山学園であるために」をテーマに学園の各学校・園の現状を振り返りたいと思います。

令和6年度は少子化が一層加速する中(速報値では出生数70万人を下回る見込み)、入学状況は大学が募集定員の80.0%にあたる644人、中高が103.9%の665人、小学校が97.1%の68人、幼稚園が60.0%の30人となり、大学と幼稚園では募集定員を大きく下回る結果となっています。

現在、学園では「経営安定化計画」の大学編、中高編、小幼編を策定し、中期計画及び各年度の事業計画に反映させながら、

施策を進めています。経営安定化計画で示した募集定員は大学、中高は現状を維持し、小学校は令和7年度から65人(△5人)、幼稚園は40人(△10人)とし、体制整備と施策を展開しています。

今、課題は大学での募集定員805人を維持した施策展開としたもの、大学の令和7年度入試が現在進行中ですが、令和4～6年度入試に大きく影響を与えた「文部科学省の補助金政策上の収容定員厳格化の限定的緩和措置」が、上位大規模大学での最終調整年度となる影響で、本学の令和7年度入試も厳しい見通しとなっています。

この状況を踏まえ、大学では速やかに募集定員の確保や適正

化に向けた追加策を講じなければならぬと考えています。現在、大学と法人で構成する「学部学科の在り方検討会」で議論をスタートしています。一定の合意を得た施策はスピード感をもって実施し、さらに検討を進めていきます。ただし、文部科学省への申請や届出の必要なものもあることから、一定の時間を要することも考慮しなければなりません。

いずれにせよ、「これからも選ばれ続ける帝塚山学園であるために」を実現することを目標とし、大学を取り巻く環境が苦しい中でも、Never give up.の精神で乗り越えたいと思います。

皆さまのご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。



学校法人 帝塚山学園
理事長・学園長 富岡 将人



1/28

経営課題に挑む経済経営学部田中ゼミ生の挑戦 沖縄企業の課題解決に向けた学生のオンライン提案



経済経営学部田中雅子ゼミの3年生が、昨年9月に訪問した沖縄の企業2社(株式会社レキオス、株式会社琉球補聴器)からいただいた経営課題に対して、オンラインで提案を行いました。

のような差別化を図ることができるか」「新入社員を良い方向に伸ばすには」の2つが挙げられていました。学生たちは、これらの課題に対してそれぞれ4つの提案を提示し、企業の方々か



ら高い評価を受けました。特に、株式会社琉球補聴器の森山賢社長からは、「提案を今すぐ採用して実行する」という言葉があり、学生の考えた提案が企業に取り入れられることが決まりました。昨年と同様に当該企業への提案が行われ、2年連続で提案が採用されることとなりました。努力が報われ、学生たちの喜び姿が見られました。

当日は、参加企業の経営者の自己紹介、日置慎治学部長の挨拶、学生の提案という流れで進行し、吉野功一ゼミの3年生の参観もあり、総勢30名の学生と教員が参加しました。株式会社レキオスの課題には、「学生気分から社会人へ意識改革を促すマインドセット研修案」が、株式会社琉球補聴器の課題には、「他社とど



12/13

法学部・西岡柚葉さんが一日消防長に！ — 火災予防を呼びかけ —



「ならファミリー」(奈良市)で開催された「令和6年度歳末火災予防運動消防フェア」において、西岡柚葉さん(法学部3年)が一日消防長を務め、火災予防の啓発活動を行いました。

西岡さんは、一日消防長としての宣誓を行った後、消防局職員とともに店内を巡回し、避難経路の確認や防火設備の点検を実施しました。さらに、「火の用心」と書かれたポケットティッシュを買い物客に配りながら、火の取り扱いに注意するよう火災予防を呼びかけました。



法学部では警察官や消防官を目指す学生に向けて、様々な官学連携活動を推進しており、今回の一日消防長の委嘱もそれらの一環として実現しました。このイベントは、冬場に増加する火災への注意を呼びかけるため、奈良市消防局が毎年実施しているもので、本学は2016年からこの啓発活動に協力しています。



イベントを終えた西岡さんは、「多くの方が防火について真剣に耳を傾けてくださり、火の用心の大切さを伝えられたことが嬉しかったです。私自身も、火災予防を意識して生活したいと思います」と語りました。



1/17

教育学部 スチューデント・コンサート 居住空間デザイン学科〈卒業研究展〉を実施



1月17日、教育学部の「スチューデント・コンサート」を学園前ホールで開催しました。今年で10回目を迎え、大学開学60周年を祝うにふさわしい素晴らしい音の饗宴となりました。

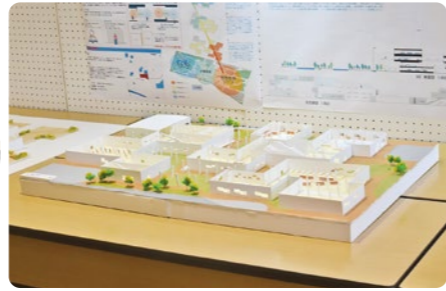
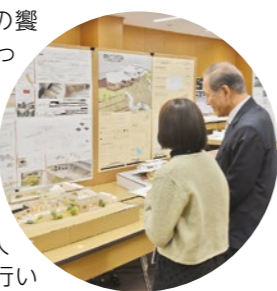
作品の見どころや苦労話を熱心に説明する学生たちの姿は、訪れた来場者の心に深く刻まれました。



両イベント共に、多くの来場者に学生たちの努力と成果を体感してもらう機会となりました。

学歌『この丘に立てば』の混声合唱から始まったコンサートは、ピアノ独奏、声楽独唱、楽器アンサンブル、ヴァイオリン演奏など、多彩な演目でホールを包み込みました。

2月9日～11日には、現代生活学部居住空間デザイン学科による第18回卒業研究展を学園前キャンパスで開催しました。学生たちが自ら企画・レイアウトを行い、建築模型や卒業論文、造形作品を一堂に展示しました。会期中には富岡将人理事長・学園長も来場し、学生たちは作品についての説明を行



～学生たちによる展示解説～



1月20日から2月15日にかけて、帝塚山大学附属博物館で、第17回博物館実習生による企画展示「彩を纏う―着物文化を語る道具たち―」が開催されました。本展示は、学芸員資格取得を目指す文学部の学生が、博物館実習の集大成として企画・広報・展示を手がけるもので、毎年一般公開されています。

今回の展示は、第一章「糸・織り・染め」、第二章「伊勢型紙と見本帳」、第三章「江戸から大正のファッション」の三章構成で、日本の伝統的な着物文化を支える道具や資料を紹介しました。

第一章では、綿織り機や機織り道具などの布づくりに関する民具を、第二章では、伊勢型紙や見本帳といった染物の資料を、第三章では、櫛やかんざし、鏡台などの道具を展示。約20点の貴重な資料を通じて、日本の着物文化の奥深さを体感できる内容となりました。

また、1月25日と2月1日には、展示を企画した学生による展示解説を実施。学生たちは、事前に資料を調査し、「一生懸命考えた解説内容を来館者にわかりやすく伝える」という思いで、展示の見学した来館者からも、「着物文化について詳しく知る機会になりました」「学生の解説が丁寧で、道具一つひとつの役割や歴史がよく理解できた」などの感想が寄せられました。

「彩を纏う―着物文化を語る道具たち―」

「展示を見学した来館者からも、「着物文化について詳しく知る機会になりました」「学生の解説が丁寧で、道具一つひとつの役割や歴史がよく理解できた」などの感想が寄せられました。

「彩を纏う―着物文化を語る道具たち―」

「展示を見学した来館者からも、「着物文化について詳しく知る機会になりました」「学生の解説が丁寧で、道具一つひとつの役割や歴史がよく理解できた」などの感想が寄せられました。



第17回博物館実習生による企画展示 「彩を纏う―着物文化を語る道具たち―」

11/20
JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

ロボット研究と進路選択についての キャリア講演会を開催



高校1年生女子および希望する生徒を対象に、キャリア講演会を開催しました。日本ロボット学会の協力のもと、講師として京都大学大学院情報学研究所の東風上奏絵特定助教をお招きし、「ロボット研究とそこに至るまでの進路選択」をテーマに講演が行われました。

講演では、東風上先生が取り組むロボットを活用したコミュニケーション研究や、研究者になるまでの道のりについて語られました。また、先生が研究の中で携わるロボット「スタックチャン(Stack-chan)」も紹介され、生徒たちは実際にロボットを目の前にしながら、研究内容を具体的にイメージすることができました。

さらに、大学時代に女子学生が少ない環境で学んだ経験や、専門を選ぶ際の葛藤、研究への情熱などが、親しみやすい語り口で伝えられました。「自分の興味を大切にすることが、進路選択や研究の原動力になる」というメッセージは、生徒たちに深く響いたようです。

また、スタックチャン(Stack-chan)を活用した最先端の研究テーマも紹介され、理工系分野に関心のある生徒にとって大きな刺激となりました。参加した生徒からは、「研究者としての苦労や楽しさを知り、大学の学部選択など自分の進路について考える良い機会になった」との感想が寄せられました。



スタックチャン (Stack-chan)

1/12
JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

数学研究部が「近畿スマホサミット2025」に 奈良県代表として参加!



数学研究部・河村郁さん(高2)と大麻雄飛さん(高1)が、総務省近畿総合通信局で開催された「近畿スマホサミット2025」に奈良県代表として参加しました。このサミットは、青少年のインターネット・リテラシー向上を目的としたシンポジウムで、生徒が主体となり、インターネットの適切な利用やルール作りについて大人と考える場として開催されました。

当日は、兵庫県立大学の竹内和雄教授による講演から始まり、その後、近畿各府県から選ばれた8校の生徒たちが、自校でのICT機器の活用やスマートフォン利用に関する取り組みについて発表しました。河村さんと大麻さんは、学校におけるICTの活用事例

や、スマートフォン利用のルールについて発表しました。

また、発表をもとに、生徒・教員・IT業界の専門家によるディスカッションが行われ、インターネットの適切な利用について意見交換をしました。パネリストには、Facebook Japan 合同会社の小俣栄一郎公共政策部長や近畿総合通信局の武本圭史情報通信部長も加わり、多様な視点から議論が交わされました。

サミットに参加した河村さんと大麻さんは、「発表準備には苦労しましたが、他校の取り組みを知ることができ、とても良い経験になりました」と振り返りました。



11/16-18
JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

ハワイ・ミリラニ高校との 国際交流を実施!



アメリカ・ハワイ州にあるミリラニ高校の生徒が本校を訪れ、3日間にわたる国際交流を行いました。ミリラニ高校と本校は毎年相互交流を行っており、今回も本校からは希望生徒が参加し、異文化理解を深める貴重な機会となりました。

交流の初日は、中高の食堂でのランチ会からスタート。食事を共にすることで緊張が和らぎ、自然と会話が弾みました。短い時間の中で言葉の壁を越えて打ち解け、すぐに友人のような関係になりました。その後、学校案内や部活動体験を実施し、本校生徒が主体となっておもてなしをしました。部活動体験では、剣道や和室での茶道に挑戦。剣道で



は竹刀を手に取り、日本の武道の精神を学びました。茶道体験では、静かな雰囲気の中でお点前を学び、日本の伝統文化に触れる機会となりました。交流プログラムは、事前に本校生徒が企画・準備を行い、当日の運営や進行も担当。ミリラニ高校の生徒たちに楽しく過ごしてもらえるよう、工夫を凝らしました。

また、ミリラニ高校の生徒たちは本校生徒の家庭にホームステイし、日本の生活を体験しました。日々の暮らしの中で文化の違いを感じつつも、互いの生活習慣を学び合い、友情を深める機会となりました。



～自然の恵みに感謝し、学びを深めた実りの一日～



炊き立ての神丹穂



手作業で籾殻を取り除く生徒たち



脱穀作業



野生動物による被害に遭った現場を訪れる生徒たち

「田んぼプロジェクト」の最終回を迎えたこの日、生徒たちは乾燥させた稲穂から籾を抜き落とす脱穀作業に挑戦しました。昔ながらの足踏み式脱穀機を前に、最初は戸惑いながらも、試行錯誤を繰り返すうちに少しずつ回すコツをつかんでいきました。一定のリズムを合わせるのが難しい「均等に力を入れないとうまく回らない」など、機械に振り回されながらも作業を進めます。

一方、別のグループは箕を使い、籾殻等を選別する昔ながらの作業を体験しました。手作業ならではの難しさを感じながらも、当時の農具に実際に触れることで、先人たちの努力や工夫を肌で感じる貴重な時間となりました。選別された玄米は来年度のプロジェクトに使用される予定です。

一連の作業がひと段落すると、待ちに待った美食の時間がやってきました。炊きあがったばかりの神丹穂からは、湯気とともに、お米本来の甘い香りが広がります。

さらに、本プロジェクトに多大なご協力をいただいている地元農家の梅井さんと瀬川さんが、

新鮮な野菜やジビエ料理をふるまってくださり、生徒たちは列を作って出来立ての味を堪能しました。特に、プロジェクトの学びの一環として提供されたジビエは、「初めて食べるけれど、思ったよりも食べやすい」「獣害対策として捕獲された命を無駄にしないことの大切さを感じた」といった感想が聞かれ、食を通じて自然と人との関わりについて考える機会となりました。

プロジェクトを通じて、生徒たちは単なる農作業の体験にとどまらず、自然の恵みに対する感謝の気持ちを育みました。「自分たちで手を動かし、お米ができるまでの過程を学ぶことで、普段何気なく食べているご飯のありがたみを実感した」「田植えや稲刈りの大変さを知ること、農家の方々の努力を改めて考えさせられた」「獣害の問題に向き合うことで、人と自然の在り方について考えるきっかけになった」など、様々な声が聞かれました。

実際に体験することで得られる学びの深さを改めて実感するとともに、食と自然のつながりを自らの肌で感じる事ができました。

中学校・高等学校

12/15
JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

田んぼプロジェクト
脱穀・実食



～響け、感動のハーモニー～



帝塚山小学校コーラス部は、今年も校外での活動を通じて多くの人々に歌声を届けました。

11月12日には、JWマリオット・ホテル奈良で開催された「クリスマス・チャリティ点灯式2024」にてクリスマスソングを披露。高さ4.5mのクリスマスツリーが飾られた華やかな館内で、児童たちは少し緊張しながらも心を込めて歌いました。演奏後、観客からの温かい拍手に包まれ、安堵の表情を浮かべていました。

12月1日には、大阪城ホールで開催された「サントリー1万人の第九」に出演。本番に向けて、音楽家・有元正人さんによる特別指導を受け、ドイツ語の発音やフレーズの表現、抑揚のつけ方などを細かく学び、合唱の完成度をさらに高めました。本番では、世界的指揮者・佐渡裕さんの下、1万人の大合唱団の一員として「第九」を歌い上げ、会場全体が一体となる感動を味わいました。歌い終えた児童たちは、「歌い切った！楽しかった！」と達成感に満ちた表情を見せていました。そして、4月13日に2025

年日本国際博覧会(2025年大阪・関西万博)で開催される「1万人の第九」EXPO2025への出演も決定。この公演は万博の開幕日当日に行われ、会場を音楽で彩ります。出演決定を受け、コーラス部の児童は万博の開幕式で歌えることはとても貴重なことなので、参加が決まって嬉しいです。緊張すると思いますが、世界中の人に楽しんでもらえるよう、精一杯歌い切ります」と意気込みを語りました。

校外での経験を積み重ねた今年のコーラス部は、大きく成長を遂げました。仲間との絆だけでなく、合唱の調和や表現力も向上しています。指導にあたる顧問の田中葉子教諭は、「児童たちが音楽を通して成長し、様々な舞台上で活躍する姿を見るのは非常に嬉しいことです」と語り、児童たちのさらなる成長を期待しています。

今年のコーラス部は、校外での活動を通じて大きく成長しました。万博に向けてさらに練習を重ね、音楽の素晴らしさを多くの人々に届けていきます！



万博で歌う日を待ちきれません！



3年生の発表

の児童も興味津々に聴いていました。4年生は、「自分の特技」をテーマに、ダンスや楽器の演奏などをグループごとに披露。友達と協力しながら、英語を使って自分たちの表現を工夫していました。

5年生は、2つのグループに分かれての英語朗読に挑戦。英語科の先生の音声を録音し、タブレットでリスニング練習を重ね、難しい単語や表現にはアクションを加えるなど、発表を聴く児童にも伝わりやすくする工夫が見られました。

そして6年生は、「将来の夢」をテーマに発表。自分の夢について堂々と英語で語る姿に、下級生たちは憧れの眼差しを向けていました。発表を終えた児童たちの顔には、やり遂げた達成感がにじんでいました。



2024 WINTER FESTIVAL 英語発表会を開催

小学校全学年が参加する「2024 WINTER FESTIVAL 英語発表会」を開催しました。コロナ禍では、人数制限をしながらの開催となっていました。今年度より全校児童が一堂に会し、互いの発表を見て楽しむ形での実施となりました。英語科の先生たちがオリジナルのシナリオを作成し、授業や朝のモジュールの時間を活用して練習を重ねてきた成果を、児童たちは舞台上で堂々と発表しました。

1年生は、これまでに学習してきた英語のフレーズを使い、身体全体を使った元気な発表を披露。友達と一緒に楽しみながら、リズムよく英語を話しました。

2年生は、1年生のときよりも発音がさらに上達し、大きなジェスチャーを交えた表現豊かな発表を行いました。

3年生は、一人ひとりが「自分の好きなキャラクターやテーマ」について英語でスピーチ。個性が光る発表に、会場

外部講師出張授業を実施 —ロボット体験教室でプログラミングに挑戦—



小学校5年生を対象に、子ども向けロボットプログラミング教室「プログラボ」の講師を招き、「ロボット体験教室」を実施しました。この授業では、児童たちがパソコンを使い、ロボットを動かすためのプログラムを作成。タイヤの回転数や曲がる角度を調整しながら、プログラミングの基礎を学びました。

同じプログラムを入力しても、ロボットの摩擦やモーターの特性によって動きが異なるため、思い通りに動かすには微調整が必要



です。児童たちは試行錯誤を繰り返しながら、ロボットの動きを調整し、プログラムを完成させていきました。

今回の授業のメインミッションは、宇宙に見立てたシート上で「地球を出発し、火星までたどり着く」というシミュレーション。ロボットが決められたルートを正確に進めるよう、児童たちは何度もプログラムを修正しながら調整を重ねました。無事に火星まで到達できたグループは、さらに高度な課題に挑戦。ロボットにアームを取り付け、荷物を運ぶプログラムを作成しました。ロボットが目的地までスムーズに荷物を運べるよう、動きの精度を高める工夫をする姿が見られました。

この授業を通して、児童たちは「トライ&エラー」の大切さを実感。何度も失敗を重ねながら、最終的に成功したときの達成感を味わうことができたようです。



無事火星まで到達できました！

2025.1- Instagram公式アカウントを開設しました

令和7年1月、小学校の公式Instagramアカウントを開設しました。このアカウントでは、児童の日常の様子や学園内の各学校・園との連携事業等を写真や動画で発信します。

また、学校説明会・体験授業など、本校に関心をお持ちの方を対象としたイベント情報を発信します。学校の魅力を広く発信する場として活用しますので、保護者の皆さまだけでなく、地域の方や学校関係者の皆さまもぜひ、フォローをお願いします。

Instagramを通じて、帝塚山小学校の雰囲気や教育の取り組みをリアルタイムで感じていただけます。

【ユーザーネーム】tezukayama_elementary_school
【URL】https://www.instagram.com/tezukayama_elementary_school/



TEZUKAYAMA_ELEMENTARY_SCHOOL

～ 挑戦の成果をここに～



幼稚園では、園児たちが多様な経験を通じて挑戦し、成長する「チャレンジプログラム」を実施しています。専門の講師の指導の下、年間を通して様々な活動に取り組み、技術だけでなく、礼儀や協調性、自ら考え挑戦する力を育んできました。1月28日・30日に、その集大成となる最終日を迎え、これまでの学びの成果を存分に発揮する特別な日となりました。園児たちは堂々とした姿で発表に臨み、保護者の皆さまも温かく見守りました。

茶道の時間では、お茶を点てる作法やおもてなしの心を披露しました。園児たちは「ひとつひとつの動作を丁寧に行いながら」「どうぞ」「ありがとうございます」と、習った礼儀作法をしっかりと実践。

バレエでは、園児たちがアラバスクやパッセなどの基本姿勢を意識し、リズムに合わせたステップを披露する発表会を実施しました。園児たちはバレリーナになりきり、背筋を伸ばし、指先まで意識した美しい動きで、堂々と踊ることができました。発表の最後には、スカーフを持ち、「くるみ割り人形」の曲に合わせて優雅なバレエを披露しました。

合奏では、太鼓や木琴、トライアングルなどの楽器を使い、息の合った

演奏を発表しました。初めはそれだけの音がなかなか揃いませんでしたが、練習を重ねるうちに「皆の音をよく聴くこと」「息を合わせること」の大切さを学び、次第に二つの美しいハーモニーを奏でられるようになりました。

サイエンス&フラフトでは、園児たちが実験や制作活動を通じて、科学の面白さに触れました。最終日には、ボタン電池を使った実験に挑戦し、電気が通る仕組みを学びました。園児たちは真剣な表情で作業に取り組み、科学の世界に魅了されていました。

サーキットコーディネーションでは、鉄棒や跳び箱、ボールを使った運動を発表しました。日々の練習を積み重ねることで、前回りができるようになったり、跳び箱を跳べるようになったりと、それぞれが大きな成長を遂げました。友達と励まし合いながら挑戦し、できるようになったときにはお互いに喜び合う姿が見られました。

チャレンジプログラムを通じて、園児たちは「努力することの大切さ」「協力することの喜び」「挑戦することの楽しさ」を学びました。これからも、一人ひとりが新たな挑戦を重ね、さらに成長していくことを目指します。



1/30 皆で鬼退治! 元気いっぱいの豆まき



1月30日、幼稚園で一足早い節分の豆まきを行いました。各教室からは、「鬼は外!福は内!」の掛け声や「まめまき」の元気な歌声が響き渡り、園内にはにぎやかな雰囲気包まれました。

するとそこに「悪い子はいねえか」と赤鬼と青鬼がやってきました。鬼たちが各クラスを訪れると、園児たちは大騒ぎ。驚きながらも、「鬼は外!福は内!」と力いっぱい豆をまきました。

怖がりながらも勇気を出して豆を投げる子、鬼の迫りに思わず泣いてしまう子、笑顔で楽しむ子など、様々な表情が見られました。先生たちの励ましもあり、最後は



皆で鬼を追い払い、無事に福を呼び込むことができました。

豆まきが終わると、園児たちは「鬼、やっつけたね!」「もう怖くないよ!」と話し、心もひと回り成長した様子でした。その他にも各クラスでは、節分にちなんで、工作でオリジナルのお面やこの日の豆まきを使う豆入れを作ったりしながら、日本の伝統行事に親しみました。

今年も元気いっぱい、健康で幸せに過ごせますように!



12/17 よいしょ!よいしょ! みんなで力を合わせてお餅つき



リズム室で年末恒例の餅つきを行いました。今年も園児たちは元気いっぱいに餅つきを楽しみました。リズム室には蒸したてのもち米の良い香りが広がり、園児たちは「早くつきたい!」と目を輝かせていました。

餅つきが始まると、園児たちは「よいしょ!よいしょ!」と元気いっぱいに掛け声をかけながら、お餅がつき上がる

様子を興味津々で見守りました。その後、一人ひとりが杵を持ち、順番に餅つきに挑戦。先生や友達に見守られながら、一

生懸命に杵を振り下ろしていました。「思ったより重い!」「べったんべったんって楽しい!」と、つきたての餅の感触を楽しみながら頑張りました。



つきたてのお餅は、きなこや醤油をつけて皆でいただきました。自分たちでついたお餅の味は格別で、「おいしい!」「もっと食べたい!」と笑顔があふれました。また、給食を作ってくださいる食堂の方や学園の守衛さん、学園前駅の駅員さんや交番のおまわりさんなど日ごろお世話になっている方々にお餅を届けました。



12/17 園児たちの創造力が輝く「制作展」を開催!



リズム室や各教室で「制作展」を開催しました。2歳児から年長組までの園児たちが、それぞれの発想を生かして制作した作品が並び、園内はまるで美術展のような雰囲気包まれました。訪れた保護者の皆さんも子どもたちの力作に見入っていました。

年長組は、お泊り保育で作った「赤膚焼」の湯飲みや、伝統工芸の「藍染め」に挑戦し、その出来栄を展示。木工制作にも取り組み、創意工夫を凝らした作品が飾られました。



帝塚山大学 子ども教育学科 教育連携部 年長組の作品も展示

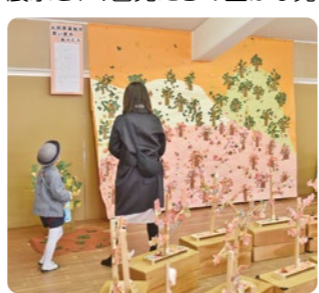


合い、色鮮やかな作品が完成。協力して作り上げる楽しさを味わいながら、表現の幅を広げました。

年少組は、陶芸で自分の好きな動物を作り、木工制作ではクリスマスリースを制作。拾い集めたどんぐりやまつぼっくりを使って飾り付けを行い、個性あふれる作品が並びました。

また、各クラスの壁面制作では、先生に読んでもらった物語をテーマにしたカラフルな作品が展示され、園児たちの豊かな発想力と表現力が光りました。

会場では、自分の作品を保護者や家族の人に得意げに説明する園児の姿が見られ、作品を通じて成長の喜びを感じている様子が伝わってきました。今回の制作展は、園児たちが創造力を発揮し、表現する楽しさを実感する貴重な機会となりました。



03 大学レスリング部 全勝優勝で1部リーグに復帰



12月7日・8日、強化クラブである大学レスリング部が金岡公園体育館(大阪府堺市)で開催された「令和6年度西日本学生レスリング秋季リーグ戦」に出場し、2部リーグで6戦全勝し、見事優勝を果たしました。これにより、来シーズンからの1部リーグ復帰が決定しました。

今大会は7大学による総当たり戦で行われ、特に2戦目の関西学院大学戦は接戦となりましたが、チーム一丸となって4対3で勝利。その勢いのまま、全試合を制しました。特に全日本レベルの実力を誇る吉田奨健さん(経済経営学部4年)は6戦全勝し、小田原杯(2部リーグ最優秀選手)に輝きました。

昨年度の秋季リーグ優勝により1部リーグへ昇格したものの、春季リーグでの降格という悔しい経験を経て、部員は今大会に向けてより一層厳しい練習に励みました。その努力が実を結び、再び1部リーグで戦う権利を勝ち取りました。

来年度春季リーグ戦では、強豪ひしめく1部リーグでの戦いが待っています。さらなる成長と飛躍を目指し、レスリング部の挑戦は続きます。

06 大学・女子バレーボール部が全国大会で健闘! 関西リーグ3位の好成績も

大学・女子バレーボール部は、11月26日~12月1日の間、「第71回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会 ミキプルーンスーパーカレッジバレー2024」(東京都渋谷区・神奈川県川崎市ほか)に出場し、全国の強豪校と熱戦を繰り広げ、見事ベスト16に進出しました。全国の舞台での健闘は、選手たちの努力とチームワークの成果を示す素晴らしい結果となりました。

また、関西大学バレーボール連盟の2024年度秋季リーグ戦では、激戦の末、第3位という好成績を収めました。関西リーグ上位の実力を証明し、さらなる飛躍が期待されます。

次のシーズンに向けて、さらなる成長を目指す女子バレーボール部。今後の活躍にも注目です。



04 中学校・高等学校 推奨資格 2024年度 第2回 実用英語検定試験合格者

- 高校 準1級合格: 牧村 優愛さん
- 中学校 2級合格: 川畑 安司さん 中野 琴遥さん
山田 琉陽さん 高原 里菜さん
久保田 桃都さん 加藤 理奈さん

05 中学・卓球部 「第26回全国中学選抜卓球大会」出場決定!

12月24日、ジェイテクトアリーナ奈良(奈良県橿原市)で開催された奈良県中学校新人卓球大会(団体)において、中学・卓球部男子が見事優勝を果たしました。この結果、3月29日・30日に富山県総合体育センター(富山県富山市)で開催される「第26回全国中学選抜卓球大会」への出場権を獲得しました。

強豪が集まる全国大会での健闘と今後のさらなる活躍に期待が集まります。

01 中高・数学研究部 「第24回日本情報オリンピック」本選に出場!



左より谷崎さん、濱口さん

中高・数学研究部の谷崎啓太さん(高2)と濱口琉良さん(中3)が、1月26日・2月2日に開催された「第24回日本情報オリンピック(JOI 2024/2025)」の本選に出場しました。日本情報オリンピックは、高校生までの競技プロ

グラマーの日本一を決める大会で、プログラミングを活用して数理情報科学の課題を解決する競技が行われます。また、国際科学オリンピックの一つである「国際情報オリンピック(IOI)」の日本代表選考も兼ねた大会です。予選・本選ともにオンラインで開催されました。

予選には全国から約4,000人が参加し、本選への出場権は、その中から特に優れた成績を収めた者に与えられます。本選には198人が出場し、谷崎さんと濱口さんは、高度なアルゴリズムの知識とプログラミングスキルを磨きながら挑戦を続け、本選で健闘しました。

惜しくも日本代表になることはできませんでしたが、濱口さんは「次回も本選に出場し、さらに勝ち進んで国際情報オリンピックの日本代表になれるよう頑張ります」と意気込みを語りました。谷崎さんは「最後のチャンスで、本選出場という貴重な機会を得られてよかったです」と振り返りました。

02 大学居住空間デザイン学科の学生・教員が「京都デザイン賞2024」で入賞・入選!

公益社団法人 京都デザイン協会主催の「京都デザイン賞2024」において、大学現代生活学部居住空間デザイン学科の学生4名と深谷友貴准教授が入賞・入選を果たしました。

このコンペティションは、京都の伝統と文化を守りつつ、新たなデザイン手法を取り入れ、新しい京都のデザインの創出を目的に開催されています。学生たちは、大里浩二教授(専門:グラフィックデザイン)と深谷友貴准教授

(専門:プロダクトデザイン)の指導の下、作品に磨きをかけました。その成果が実り、居住空間デザイン学科としては5年連続で授賞式に参加し、2部門での入賞・入選という輝かしい実績を残しました。

11月24日にホールKeiryu(京都府京都市)で開催された授賞式には大里教授も列席し、学生たちの健闘を称えました。今後も学生たちのさらなる活躍が期待されます。

- 課題によるデザイン提案
新しい京の和文具デザイン
入賞/谷口 志希さん(3年)
- 「京とうふ藤野」パッケージデザイン
入選/坂下 真菜さん(4年) 戸口 珠緒さん(3年)
- 布素材を使った小物のデザイン
入選/橋本 悠里亜さん(3年)
- プロダクトデザイン・クラフト・雑貨デザイン部門
「京都商工会議所会頭賞」を受賞
深谷 友貴 准教授



(前列左より) 橋本さん、戸口さん、谷口さん、坂下さん
(後列左より) 大里 教授、深谷 准教授

※このほかにも多くの学生・生徒・児童が活躍しています。各学校ホームページやInstagramで随時情報を発信していますので、ぜひご覧ください。

つながる ひろがる 教育連携

Educational Collaboration
in Tezukayama Gakuen

11/16
大学
×
幼稚園

園児と大学生の共同制作 「みんなでいっしょに造形あそび」 色と形でつくるトンネルアート

大学教育学部服部正志准教授の指導の下、幼稚園の年長組と大学教育学部の4年生11名が幼稚園リズム室でアート制作を行いました。活動は教育連携提案事業の一環として行われたもので、学生が事前に準備した大きな色画用紙を複数枚つなぎ合わせた2枚の大地を使い、年長組の園児たちとともに進められました。

園児たちはカラーテープを自由にちぎり、乗り物や模様など思い思いのデザインを下地の紙に貼り付けました。さらにクレヨンで丸を描いて線でつなぎ、個性あふれる作品に仕上げました。

完成した作品は、学生たちの手で筒状のトンネルに加工され、園児たちは順番にくぐり抜けて遊びました。形の違う2つのトンネルを体験した園児たちは、笑顔いっぱい。楽しい思い出とともに活動を締めくくりました。

学生と園児が力を合わせて制作したトンネルは、幼稚園の制作展でも展示されました。
※幼稚園の制作展については10ページに掲載しています。



11/14
大学
×
小学校

大学生と児童が一緒に挑戦！ グミづくりを通じた 食育実習

大学現代生活学部食物栄養学科の新宅ゼミの協力の下、小学校3年生を対象とした「グミづくり」の調理実習が行われました。本実習は、食育の一環として「噛むことの大切さ」を楽しく学ぶことを目的とし、児童たちは大学生の指導の下、自らの手でグミを作る体験をしました。

当日は、児童たちがグループに分かれ、材料を混ぜたり加熱したりと、慎重に作業を進めました。家庭科室には甘い香りが広がり、児童たちは固まってきたグミの様子を興味津々で見守っていました。いよいよ完成したグミを味わうタイミングで、大学生から「噛むことは脳の活性化や健康維持につながる」といった食育の話があり、児童たちは実際にグミをしっかりと噛みながら、その大切さを実感している様子でした。

実習を終えた児童たちからは、「大学生のお兄さん、お姉さんが優しく教えてくれて楽しかった！」「よく噛んで食べるのが大事だと分かった！」といった声が聞かれました。今回の取り組みは、食に関する正しい習慣を学ぶ貴重な機会となるとともに、大学生と児童の交流を深める場にもなりました。



1/22
大学
×
幼稚園

心理学部と 帝塚山幼稚園が連携し、 子育て講演会を開催

大学心理学部と幼稚園の教育連携提案事業の一環として、「子どもの発達と感覚統合」をテーマに子育て講演会を開催しました。本講演会は、心理学部の式部陽子准教授が企画したもので、当日は幼稚園の保護者や教諭、大学院心理学研究科臨床心理学専修の大学院生、大学教員が参加しました。

講演では、作業療法士の資格をもつ藍野大学医療保健学部作業療法学科の高畑脩平講師を招き、「子どもの体と脳、感覚を育てること」や「子どもが楽しむながら発達を促している関わり」についてお話いただきました。感覚統合の重要性についての解説に加え、参加者自身が体を動かす体験も交えながら、子どもの発達を理解する機会となりました。

保護者からは「子どもの発達について新たな視点が得られた」「子育てにすぐに活かせる内容だった」といった声が寄せられ、学びの多い時間となりました。心理学部と幼稚園は、今回の講演会のほかにも「キンダーカウンティング事業」など、様々な連携を進めています。今後も学園内のつながりを活かしながらさらなる展開が期待されます。



1/31
小学校
×
幼稚園

英語学習交流を 実施



当日は、小学校の森本先生とレスリー先生も参加し、読み聞かせをサポートすることも、園児たちとの簡単な英語でのやり取りを交えながら、英語の楽しさを伝えました。英語のリズムや発音に興味を持った園児たちは、小学生や先生と一緒に簡単なフレーズを口にする場面も見られ、和やかな雰囲気の中で交流が行われました。

読み聞かせに参加した児童は、「幼稚園の子たちと交流する機会が持て、嬉しいです」と話していました。また、「英語を使って伝えることの難しさも感じましたが、園児たちが笑顔で聞いてくれて、自分たちも楽しく読むことができました」と、自身の学びにもつながる経験だったことを振り返っていました。

今回の交流は園児たちにとって貴重な学びの機会となり、小学生にとっても自分たちの学びの成果を披露する機会となりました。



11/16
大学
×
幼稚園

出汁の魅力体験！ 「親子で出汁を 味わう会」を実施



大学現代生活学部食物栄養学科の新宅ゼミが、幼稚園児とその保護者を対象に「親子で出汁を味わう会」を実施しました。11組の家族が参加し、昆布と鰹節を使った出汁の魅力学びました。

イベントでは、昆布や鰹節に関するクイズや、実際に昆布や鰹節に触れる体験が行われ、園児たちは興味津々の様子でした。また、3種類（鰹節、昆布、昆布と鰹節を混ぜたもの）の出汁を赤・青・黄のテープで識別したコップで飲み比べ、それぞれの出汁の味や香りの違いを体験しました。

最後には、鰹節削りの体験も行われ、削りたての香りや味を楽しむことができました。「何度もう削りたい」「削りたての鰹節はおいしい」と夢中になる園児の姿も見られました。

出汁の魅力に触れる貴重な機会となりました。



令和7年1月13日

はたちを祝う会を開催しました

「帝塚山中学校・高等学校 77期生 はたちを祝う会」が学園講堂で開催され、270名が参加しました。スーツや華やかな振袖に身を包んだ卒業生たちは、友人や恩師との久しぶりの再会に笑顔があふれていました。

玉井政弘同窓会長の式辞、富岡将人理事長・学園長、小林健中学校・高等学校校長の祝辞に続き、77期生を代表し、松本凌典さんと太田菜月さんが、来賓や恩師への感謝の気持ちとともに、誓いの言葉を述べられました。

式典の締めくくりには全員で「帝塚山学園の歌」と祝歌「茜雲」を斉唱。式典後はホテルに会場を移し、旧交を温めました。



皆さん素敵な晴れ姿です



誓いの言葉を述べる松本さんと太田さん ホテルでの二次会



玉井政弘 同窓会長



富岡将人 理事長・学園長



小林健 中学校・高等学校校長

令和7年2月12日 クラブ表彰を実施

全国大会に出場したクラブに対して表彰式を行いました。対象となった8クラブの生徒それぞれに帝塚山学園同窓会から賞状を手渡しました。表彰されたクラブは以下の通りです。

高校数学研究部

河内 拓人さん(高2) 谷崎 啓太さん(高2)
● パソコン甲子園2024 プログラミング部門

中学卓球部

代表生徒 松村 奏佑さん(中2)
● 第26回 全国中学選抜卓球大会

高校放送部

代表生徒 福村 衣玖子さん(高1)
● 第71回 NHK杯全国高校放送コンテスト

中学放送部

代表生徒 池嶋 佑真さん(中3)
● 第41回 NHK杯全国中学放送コンテスト

高校ダンス部

代表生徒 山本 美月さん(高3)
● 第36回 全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)



※中学卓球部は当日、欠席しました。

高校理科部ロボット班

代表生徒 山本 稜真さん(高2)
● FLL 国際大会(アメリカ、マサチューセッツ州)
● WRO 国際大会(イタリア)

弦楽部

代表生徒 上田 遥香さん(高2)
● 第13回 日本学校合奏コンクール2024 全国大会

地歴部

代表生徒 中野 杏奈さん(中3)
● 第20回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト



「第57回帝塚山大学同窓会わかみどり会」懇親会を実施



6月29日JW Marriott・ホテル奈良にて懇親会を開催しました。大学開学60周年ということで、開学当初の雰囲気が見える貴重な懇親会となりました。

奥村由美子学長と小川育子同窓会長の挨拶で和やかに始まり、卒業以来40年ぶりに韓国から来日された方もいました。大学1期生から昨年卒業した57期生までの様々な世代が参加し、終始笑顔の絶えない楽しい会となりました。



「第58回帝塚山大学同窓会わかみどり会」懇親会のお知らせ

今年の会場は中華料理 百楽奈良店です。大阪や近鉄沿線では言わずと知れた本格中華料理店の老舗です。千変万化の昨今、60年前の味を今も伝えている老舗は多くありません。懐かしい味を味わえる貴重な機会をお見逃しなく、ご参加ください。

日時: 令和7年7月5日(土) 12:00~14:00
会場: 中華料理 百楽奈良店
会費: 会員・現職教員: 5,000円
新卒(令和7年3月卒業生): 2,000円
退職教員(特別会員): ご招待

お問い合わせ

大学同窓会わかみどり会ホームページ

<http://tez-dousou.net/>



写真はイメージです。

「帝塚山短期大学同窓会」の今後について

本同窓会は、平成12年の帝塚山大学短期大学部への組織変更、および平成17年の短期大学部廃止に伴い、新たな卒業生がない状況が続いています。また、会員の高齢化が進む中で役員の選出も困難となっています。過去に実施したアンケート調査では、「同窓会積立金の残高を見据えた上で解散すべき」との意見が多く寄せられました。これを踏まえ、同窓会としての活動を以下の方針で終了することとなりました。

【解散時期】

令和9年春の総会終了時

【「あかねぐも」の発送】

現時点では、2年連続で総会出欠の返信がない方への案内発送を停止しておりますが、令和7年~令和9年の間は、名簿に掲載されている全会員の方へご案内をお送りする予定です。

【解散後の名簿管理等】

学園、大学同窓会等と連携して活動停止までに方向性を決定します。

何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

ICT夢コンテストで小学校吉川澄人教諭が優良賞を受賞!

小学校の吉川澄人教諭が「ICT夢コンテスト2024」で優良賞を受賞しました。このコンテストは、GIGAスクール構想でのICT活用を推進し、優れた実践事例を全国に広めることを目的として、日本教育情報化振興会(JAPET&CEC)の主催で開催されています。

吉川教諭は、6年生の卒業研究に生成AI「Copilot」を活用する探究学習を実践し、この取り組みが高く評価されました。この取り組みでは、生成AIに独自のプロンプトを与えAIを児童のサポート役と位置づけ、児童が自ら調べたいテーマをAIと対話しながら決定。その際、AIが提示した検索ワードを使うことで、情報収集の幅を広げつつも効率的に学習を進められるよう工夫されました。吉川教諭は、生成AIを活用する際のリスクを低減するためにプロンプトを工夫し、安全で効果的な活用方法を丁寧に指導しました。

さらに、児童が自ら考えたテーマを深掘りできるよう、AIと人の棲み分けを意識した学習プロセスを



設計し、AIが検索を補助する部分、AIと協働で進める部分、人間だけで取り組む部分を明確に分けたことが、児童が主体的に学びを進める大きな助けとなりました。

この実践により、児童は膨大な情報に惑わされることなく調査を進め、AIとの協働を通じて「人とAIの関係性」を考える貴重な経験を得ました。吉川教諭の創意工夫に満ちた教育実践は、生成AIが教育現場に持つ可能性を示す先進的な事例として、今後のさらなる展開が期待されています。

皆さまの温かいご支援に感謝申し上げます

本学園の教育研究活動は、多くの皆さまからの温かいご支援によって支えられています。令和6年度も、幼稚園から大学までの各学校・園に多くのご寄付をいただきました。

皆さまからのご厚意により、施設や教育環境の整備など、未来を担う子どもたちや学生たちの学びをより良いものへと発展させることができました。

ご支援くださった皆さまに心より御礼申し上げます。今後とも、本学園の教育研究活動への変わりぬくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

受付期間：令和6年4月1日～令和7年1月31日
合計件数：170件
合計金額：20,685,000円

寄付の詳細についてはこちらから→



吹奏楽部へのご支援、ありがとうございました



これらの楽器は、今後の演奏会やコンクールなど、様々な場面で大切に使用してまいります。部員一

このたびは吹奏楽部にご寄付をいただきありがとうございます。皆さまからの温かいご支援により、予定していたユーフォニアムに加え、タンバリンとフィンガーシンバルを新たに整備し活動をさらに充実させることができました。

これらの楽器は、今後の演奏会やコンクールなど、様々な場面で大切に使用してまいります。部員一

同、より良い演奏をお届けできるよう練習に励んでおりますので、今後とも吹奏楽部の活動にご注目ください。

※現在も継続して寄付の受付をしていますので、引き続き皆さまからの温かいご支援をお待ちしております。

4月13日15時30分より、DMG MORIやまと郡山城ホール(奈良県大和郡山市)にて、「第50回定期演奏会」(入場無料)を開催します。皆さまに楽しんでいただけるステージをお届けしますので、ぜひお越しください。

寄付の詳細についてはこちらから→



ギター・マンドリンクラブ 創部60周年記念演奏会 開催のお知らせ

中高ギター・マンドリンクラブは、今年で創部60周年を迎えます。これを記念し、来たる8月3日に東大阪市文化創造館大ホール(大阪府東大阪市)にて「創部60周年記念演奏会」を開催いたします。

今回の演奏会では、以下の三部構成で演奏をお届けいたします。

- 現役生ステージ
- 卒業生ステージ
- 現役生と卒業生の合同ステージ (指揮者：金治 耕造先生・元顧問)

卒業生も約100名が参加し、姉妹や親子で出演される方もいらっしゃいます。世代を超えた音楽の絆を感じていただける演奏会となる予定です。ぜひご来場いただき、60年の歴史が紡ぐ美しい音色をお楽しみください。

皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



【開催概要】

日 時：令和7年8月3日(日) 開場14時 開演15時
場 所：東大阪市文化創造館 大ホール
入場料：無料(事前申込不要)
問い合わせ：tgmc.obogkai@gmail.com
ぜひお誘いあわせのうえ、ご来場ください。

令和6年12月28日 58期生同窓会を開催

中学校・高等学校58期生の同窓会を中高食堂にて開催しました。

約20年ぶりの開催となった今回は、恩師の先生方をはじめ、卒業生やその子どもたちを含めた70名以上が参加し、大変賑やかな会となりました。会場には、山口先生、耕先生、島本先生、矢野先生、岩本先生、川崎先生も駆けつけ、懐かしい顔ぶれがそろったことで、食堂内には歓声が響き渡りました。

昼食には、うどん、玉子丼、カレー、カツカレー、しょうゆラーメンといった、在学当時の懐かしいメニューが提供され、それぞれが思い出話に花を咲かせながら、楽しいひとときを過ごしました。

また、今回は子どもたちの参加も多く、会の終盤にはビンゴゲームを開催。景品には帝塚山の校章が入ったグッズも用意

され、当選者からは喜びの声が上がるなど、大いに盛り上がりました。改めて、母校への愛着を感じる瞬間となりました。

約20年ぶりの開催となった今回の同窓会ですが、これを機に、毎年年末に同期会を開催することが決まりました。再会の喜びを分かち合う場を今後も継続していけるよう、引き続き企画していく予定です。



各期同期会 / クラブOB・OG会

令和6年10月以降、次の同期会、クラブOB・OG会が開催されました。

- 10月13日 吹奏楽部創部70周年記念OB/OG演奏会
- 11月10日 ソフトテニス部OB/OG会50周年記念式
- 11月16日 16期生同期会
- 12月28日 58期生同期会

- 令和7年
- 1月13日 77期生新成人同期会
 - 1月19日 バレーボール部同窓会



「*T-time*」を
スマートフォンで！
スマートフォンなどでも、
本誌をお楽しみください。